



2024年「世界宣教の日」教皇メッセージ  
「出て、だれでも婚宴に連れてきなさい」（マタイ 22・9 参照）

親愛なる兄弟姉妹の皆さん

今年の世界宣教の日のテーマには、福音書から婚宴のたとえ話（マタイ 22・1-14 参照）を選びました。招かれた者たちが招待を断ると、物語の主人公である王は家来たちにいます。「町の大通りに出て、見かけた者はだれでも婚宴に連れてきなさい」（9 節）。鍵となるこの一節を、たとえ話とイエスの生涯という文脈で考えてみると、福音宣教のいくつかの重要な側面——シノドスの旅の最終段階にある現在、キリストの宣教する弟子であるわたしたち全員にとって、目下集中的に話題となっていること——が照らされます。今回のシノドスは、「交わり、参加、宣教」というテーマのもと、教会をその最優先課題である、現代世界における福音宣教に向けて再始動させなければならないとするものです。

1. 「出て、連れてきなさい」—— 疲れを知らずに出向き、主の宴に招くものである宣教王の家来たちへの命令の冒頭に、宣教の核心を表す二つの動詞、「出て」と「連れてくる」——「招きなさい」の意味——が登場します。

前者については、前もって家来たちは、招こうとする者たちに王のことは伝えるべく遣わされたこと（3-4 節参照）を思い出さなければなりません。ここから、宣教とは、全人類のもとへと疲れを知らずに出向き、神との出会いと交わりに招くことだと教えられます。疲れを知らずに——。愛に満ち、いつくしみ豊かな神は、つねに一人ひとりのもとへと出向き、その人が無関心であろうとも拒絶しようとも、み国の幸福に招いておられます。同じく、よい羊飼いであり、御父から遣わされたかたであるイエス・キリストは、イスラエルの民の失われた羊を探しに出掛け、いちばん遠くにいる羊のもとにまで行き着くために、さらに遠くへ出掛けたいと望んでおられたのです（ヨハネ 10・16 参照）。このかたは、ご自分の復活の前も後も弟子たちに「行きなさい」と命じ、ご自分の宣教に彼らを引き入れました（ルカ 10・3、マルコ 16・15 参照）。だからこそ教会は、主から受けた使命を忠実に果たすために、境界線をことごとく越えて進み続け、困難や障害に直面しても疲れを知らずに、落胆することなく、何度でも出掛けていくのです。

この機会に、宣教者の皆さんに感謝したいと思います。キリストの呼びかけにこたえ、祖国を離れ遠くへ行き、福音をまだ受け取っていない人々、あるいは、受け取ったばかりの人たちのもとに届けるため、すべてと決別したかたがたです。親愛なる皆さん。皆さんの惜しみない献身は、イエスが弟子たちに託された、諸国民への宣教という責務の具体的な表出です。「あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい」（マタイ 28・19）。

ですから地の果てまで福音化する働きのために、新たな多くの宣教者の召命を求めて、神に祈り、感謝し続けましょう。

ですから忘れてはなりません。すべてのキリスト者は、どんな環境においても、福音について自分に固有のあかしをもって、この全世界への宣教に加わるよう求められています。それは、教会全体でもって、主であり師であるかたとともに、今日の世界の「町の大通り」にたえず出ていくためです。そうです。「今日の教会の悲劇は、イエスは扉を内側からたたき続けているのに、わたしたちがイエスを外に出ないようにしていることです。主が来られたのは宣教のためで、わたしたちが宣教者となることを望んでいるのに、主を『わがもの』として引き留め、出て行かないようにする……、そうした教会となってしまうことばかりです」（教皇フランシスコ「教皇庁いのち・信徒・家庭省主催会議——司牧者と信徒の協働（2023年2月18日）——参加者へのあいさつ」）。洗礼を受けたわたしたち皆が、それぞれの立場に応じて、キリスト教の黎明期のように、新たな宣教運動を始めるため再出発する覚悟をもつことができますように。

たとえ話の中の、家来たちに対する王の命令に話を戻すと、出向くことは、声をかけること、より正確に言えば招くことと一緒になっています。「さあ、婚宴においでください」（マタイ 22・4）というようにです。このことは、神から託された使命にある、もう一つの重要な側面を示唆します。想像に難くないことですが、使者を務めたこの家来たちは、王の招きを大急ぎで、けれども深い敬意と慎みをもって伝えました。同じように、すべての造られたものに福音をのべ伝えるという宣教には、必然的に、そこで告げられているかたと同じ姿勢がなければなりません。「死んで復活したイエス・キリストにおいて現される、救いをもたらす神の愛の美」（使徒的勧告『福音の喜び』36）を世に告げ知らせるとき、宣教する弟子たちはそれを、自身にもたらされた聖霊の実である、喜び、寛容、親切（ガラテヤ 5・22 参照）をもって行うのです。押しつけず、無理強いせず、改宗を強要せず、神の流儀、神のなさり方の映しとして、必ず寄り添いの心、思いやり、優しさをもって宣教するのです。

## 2. 婚宴に——キリストと教会の宣教にある、終末的視点とエウカリスタの視点

このたとえ話の中で、王は家来たちに、息子の婚宴への招待状を届けるよう命じています。この婚宴は終わりの日の宴の映しであり、救い主、神の御子、イエスの到来によってすでに実現している神の国での、最終的な救いのイメージです。イエスはわたしたちに豊かないのちを与えてくださったかたです（ヨハネ 10・10 参照）。それは、神が「死を永久に滅ぼしてくださる」ときの、「よい肉と古い酒」（イザヤ 25・6-8）が豪華に並んだ食卓によって象徴されるものです。

キリストの使命は、その宣教の初めにご自身が告げたように、時の充満とつながっています。「時は満ち、神の国は近づいた」（マルコ 1・15）。だからキリストの弟子たちは、師であり主であるかたと同じその使命を受け継ぐよう招かれています。これに関しては、第二バチカン公会議の、教会の宣教の務めがもつ終末的特徴についての教えを思い起こしてみましょう。「宣教活動の期間は、主の最初の到来と、……二度目の来臨までの間である。ということは、主が来られるまでに、あらゆる民に福音がのべ伝えられなければならない」（『教会の宣教活動に関する教令』9）。

わたしたちは、初代教会のキリスト者の宣教熱には、終末的な側面が色濃いことを知っています。彼らは福音を告げ知らせることに切迫感をもっていました。現代においても、この視点を覚えておくことは大切です。それが、「主は近くにおられる」と知る人の喜びと、神の国でわたしたち皆がキリストとともにあずかる婚宴という目的地に向かう人の希望とを

携え、福音宣教する助けとなるからです。こうして、世が消費主義、利己的な幸福、蓄財、個人主義といったさまざまな「婚宴」を示す中で、福音はすべての人を、神との、そして人間相互の交わりにおいて、喜び、分かち合い、正義、友愛が支配する、神の宴へと招いています。

キリストからのたまものである、このようないのちの充満は、教会が主に命じられ、主を記念して祝う聖体の宴に先取りされています。ですから、わたしたちが福音宣教によってすべての人に届ける終わりの日の宴への招きは、主がご自分のことばと、御からだと御血とをもって養ってくださる聖体の食卓への招きに、本来的に結ばれています。ベネディクト十六世が教えていたとおりです。「感謝の祭儀が行われるごとに、終わりの日の神の民の集いが秘跡の形で実現します。わたしたちにとって聖体の宴は最後の宴の実際の先取りです。この最後の宴は、預言者たちによって前もって語られ（イザヤ 25・6-9 参照）、新約の中では、諸聖人の交わりの喜びのうちに祝われる、『小羊の婚礼』（黙示録 19・7-9）と述べられます」（使徒的勧告『愛の秘跡』31）。

そのためわたしたちは皆、感謝の祭儀をそのあらゆる面で、なかでも終末的な面と宣教的な面において、いっそう熱心に味わうよう求められています。この点について、次のことを今一度確認したいと思います。「宣教のわざへと導かれることなしに、聖体の食卓に近づくことはできません。宣教は、神のみ心によって計画され、すべての人に達することを目指すからです」（同 84）。コロナ禍を経て、多くの地方教会が見事に復活させている感謝の祭儀は、信者一人ひとりに宣教の心をかき立てるための、いっそうの基盤となるでしょう。ミサのたびに、さらなる信仰と熱い心をもって応唱すべきです。「主よ、あなたの死を告げ知らせ、復活をほめたたえます。再び来られるときまで」。

こうした展望を踏まえ、2025年の聖年を準備する祈りの年である今年、皆さんに呼びかけたいのは、教会の福音宣教のために、何よりもミサに参加すること、そして熱心に祈ることです。教会は救い主のことばに従順で、感謝の祭儀や典礼祭儀のたびに、「み国が来ますように」と祈る「主の祈り」を神にささげ続けています。このように、日々の祈りと、とりわけ感謝の祭儀が、わたしたちを神のうちでの終わることのないいのちへと、神がすべての子らに用意してくださる婚宴へと向かう旅路を歩む、希望の巡礼者、希望の宣教者にしてくれるのです。

### 3. 「だれでも」——キリストの弟子たちの世界への宣教と、ひたすらシノドス的で宣教的な教会

最後となる三つ目の考察は、王の招待を受けた人たちについてです。「だれでも」——。はっきり申し上げたとおりです。「この『だれでも』こそが宣教の核心です。だれ一人、例外はいません。だれでもです。ですからわたしたちの宣教はことごとく、すべての人をご自分へと引き寄せせるために、キリストのみ心から生じるものなのです」（教皇フランシスコ「教皇庁宣教事業総会参加者へのあいさつ（2023年6月3日）」）。分断や紛争にさいなまれた世界の中で、今日もなお、キリストの福音は柔和で強い声となり、人々が出会い、互いを兄弟姉妹として認め、多様性の調和を喜ぶよう招いています。神がお望みになるのは、「すべての人々が救われて真理を知るようになること」（一テモテ 2・4）です。ですから、宣教活動においてわたしたちは、すべての人に福音を告げるために遣わされた者であることを決して忘れてはなりません。そしてそれは、「新たな義務を人に課するようなものではなく、喜びを分かち合い、美しい地平を示し、だれもが望む宴に招くようなもの」（使徒的勧告『福音の喜び』14）として告げられなければなりません。



キリストの宣教する弟子たちはいつも、その社会的・道徳的状况を問うことなく、すべての人を案じる心を忘れません。婚宴のたとえば、王の命令に従う家来たちは「見かけた人は善人も悪人も皆」（マタイ 22・10）集めたと伝えています。さらには、「貧しい人、からだの不自由な人、目の見えない人、足の不自由な人」（ルカ 14・21）、つまり、社会の中で取り残され、疎外された人たちこそが王の賓客なのです。このように、神が用意された御子の婚宴は、永遠にすべての人に開かれています。わたしたち一人ひとりに対する神の愛は大きく、条件などないからです。「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠のいのちを得るためである」（ヨハネ 3・16）。変えてくださり救ってくださる神の恵みにあずかるよう、だれもが、あらゆる人が招かれています。わたしたちがすべきことはただ、神からのこの寛大なたまものに「はい」と答え、それを受け入れ、それによって変容されるがままになって、「婚礼の礼服」をまとうように、それに身を包むことです（マタイ 22・12 参照）。

すべての人への宣教には、皆で取り組む必要があります。ですから、福音に仕える、ひたすらシノドス的で宣教的な教会を目指す道を歩み続けなければなりません。シノダリティはそれ自体宣教的であり、逆もまたしかりで、宣教は必ずシノドス的です。だからこそ今日、緊密な宣教協力は、普遍教会においても、また部分教会においても、より緊急かつ必須なものとなっています。第二バチカン公会議と前任の教皇たちに倣い、世界中の全教区に対して、教皇庁宣教事業への協力を要請します。同事業は、「カトリック信者にすでに幼少のころから、真に普遍的、宣教的な精神を浸透させるための手段であり、あるいはまた、全宣教地の益のため、それぞれの必要に応じて、援助のための募金活動を効率よく行うための手段」（『教会の宣教活動に関する教令』38）として主要な部分を担っています。こうした理由から、すべての地方教会で行われる世界宣教の日の献金は全額、世界連帯基金に充当され、教皇庁信仰弘布事業により教皇の名において、教会のあらゆる宣教事業の必要のために分配されます。主がわたしたちを導き、よりシノドス的で宣教に励む教会となるために助けてくださるよう、祈り求めましょう（教皇フランシスコ「シノドス通常総会閉会ミサ説教（2023年10月29日）」参照）。

最後に、マリアに目を向けましょう。ガリラヤにあるカナでの、まさしく婚宴の場で、イエスに最初の奇跡を願い出たかたです（ヨハネ 2・1-12 参照）。主は花婿花嫁とすべての招待客に、たっぷりの新しいぶどう酒を与えましたが、これは、終わりの日に神がすべての人のために用意しておられる婚宴を予感させるしるしです。今日もまた、キリストの弟子たちの福音宣教のために、マリアの母としての執り成しを祈り願いましょう。聖母の喜びとすぐに動かれる姿勢で、優しさと愛情の力をもって（教皇フランシスコ使徒的勧告『福音の喜び』288 参照）、出向いて、すべての人に救い主である王の招きを届けましょう。聖マリア、福音宣教の星よ、わたしたちのために祈ってください。

ローマ、サン・ジョヴァンニ・イン・ラテラノ大聖堂にて  
2024年1月25日 聖パウロの回心の祝日  
フランシスコ

（カトリック中央協議会 Hp より掲載）



# おしらせ



## 1 <sup>ししゅついつとう</sup>死者追悼ミサについて

- ・ 日時 11月2日(土)10時30分～
  - ・ 会場 聖堂
  - ・ 対象 2023年11月～2024年10月までに帰天された方。
  - ・ 参加者 自由 一般の方(未信者)も参加いただけます。
  - ・ その他 対象の帰天された方は、祭壇前にお名前を顕示致します。また、祭壇前にご遺影を置くことができますので、希望される方は写真を額に入れて当日ご持参下さい。
- 対象以外の帰天された方で、特に追悼を希望される方。
- ・ 申込方法 死者追悼ミサ申込書にご記入の上、10月27日(日)までに、「死者追悼ミサ申込」と書かれた袋に入れてください。
- 問合せ 木村 090-8031-9608 宮澤 090-1808-9718

## 2 <sup>こ</sup>子ども<sup>いわ</sup>のお祝い(旧七五三のお祝い)

11月10日(日)のミサで子どもたちを祝福し記念品をプレゼントします。対象は小学校2年生までの子どもです。希望者は10月27日(日)までにセンター掲示板に記載するか、教会学校のスタッフに申し込んでください。

## 3 <sup>せかいせんきょう</sup>世界宣教<sup>ひ</sup>の<sup>けんきん</sup>日の献金

「世界宣教の日」(10月20日)は、すべての人に宣教の心と呼び起こさせること、世界の福音化のために、霊的物的援助をはじめ宣教者たちの交流を各国の教会間で推進することを目的としています。この日の献金は、各国からローマ教皇庁に集められ、世界中の宣教地に援助金として送られます。

## 4 <sup>てんれいいんかい</sup>典礼委員会からのおしらせ

10月6日(日)より いよいよ聖歌隊の練習が始まります!センター1階の掲示板に貼ってある聖歌隊募集の用紙に記名された方は10月6日(日)朝9時に聖堂にお集まりください。6日が初顔合わせになりますので、必ずご出席ください!よろしくお願ひします。

## 5 <sup>きょうかい</sup> 教会ホームページの<sup>さっしん</sup>刷新

本年12月をめどに見やすく、親しみやすいホームページに刷新します。  
各ページの担当者は、新しい原稿と写真を10月31日までにメールでお送りください。  
メール：[ashizawa@kkh.biglobe.ne.jp](mailto:ashizawa@kkh.biglobe.ne.jp) 担当：芦沢信（080-4158-0828）

## 6 <sup>がいこくごしんと</sup> 外国語信徒とのミーティング

10月13日（日）11：30 ～ 第8回 外国語信徒とのミーティング行います。外国語グループリーダーと関係者は、ご出席をお願いいたします。

## 7 <sup>ちいきふくしいいんかい</sup> 地域福祉委員会からのお知らせ

10月6日（日）11：30～ 11月13日（日）開催予定のフリーマーケットの準備・運営についても話し合いたいと思います。出店されるブロック・グループの責任者の方のご出席をお願いいたします。

8 <sup>じょせいかい</sup> 女性会	10月 6日（日）	11：30 ～	ドミニコの部屋
9 <sup>かい</sup> きずなの会	お休み		
10 <sup>てんれいいいんかい</sup> 典礼委員会	10月19日（土）	9：30 ～	センターホール
11 <sup>ちいきふくしいいんかい</sup> 地域福祉委員会	10月20日（日）	11：30 ～	サンタルチア講堂
12 <sup>こうほういいんかい</sup> 広報委員会	10月27日（日）	11：30 ～	センターホール

### <sup>よこはまきょうくいちりゅうかいたいかい</sup> 横浜教区一粒会大会の<sup>どうがはいしん</sup>動画配信お知らせ

- ◇テーマ「わたしたちについてきなさい。人間をとる漁師にしよう」
- ◇日時 2024年10月14日（月）スポーツの日 12:00～15:00
- ◇会場 カトリック松本教会 住所 長野県松本市丸の内9-32



※当日動画配信いたします。  
横浜教区ホームページからもアクセスできます。

<https://www.youtube.com/watch?v=vAfKBijG1Ws>

しんと しゅうどうしゃ しさい しんこう わ あ こうりゅうかい し  
 信徒・修道者・司祭がともに信仰を分かち合う交流会のお知らせ

テーマ「わたしの心に響く聖書の言葉」

きょうどうせんきょうしほく ーとち ーむ かながわ かとりっく よこはまきょうく いいんかい よこはまきょう  
 共同宣教司牧サポートチーム神奈川は、カトリック横浜教区の委員会として、横浜教  
 区の方針に従い、信徒・修道者・司祭の三者が共働し、主に横浜教区神奈川エリアでの  
 共同宣教司牧を推進し、支援することを目的として活動しています。特に、信徒・修道者・  
 司祭が出会いを深めていくことが共同宣教司牧の大きな土台となるととらえ、毎年「三者に  
 よる信仰を分かち合う交流会」を神奈川県内の様々な地区を会場として、開催してきました。  
 今回は山梨地区甲府教会で開催することとなりました。

テーマは「わたしの心に響く聖書の言葉」です。私たちの信仰の土台と言ってもいい  
 聖書の言葉、それを特に三者が分かち合う時、その交わりを通して、神さまがはたらかれる  
 ことをいつも感じます。私たちはそれぞれ好きな聖書の言葉があると思いますが、その時々  
 によって心に響く聖書の箇所が変わってくることもあるでしょう。それを分かち合うこと  
 で、また新たな「神の言葉」が心に響いてくるのだと思います。そんな「生きている言葉」  
 である聖書の分かち合いを通して、今回は三者の交わりを深めたいと思います。

にちじ  
 日時：2024年11月23日（土）10時30分～14時30分

ばしょ  
 場所：カトリック甲府教会

プログラム 10:00 受付  
 10:30 全体会（テーマ、趣旨等の説明・出席者の自己紹介等）  
 11:00 グループ別の分かち合い（約90分間）  
 12:30 昼食  
 13:15 ミサ  
 14:00 懇親会  
 14:30 終了予定

さんかひ  
 参加費：なし（ミサ献金をお願い致します）

もうこほうほう  
 申し込み方法：カトリックセンター1階掲示板に名簿を貼るので記名してください。

もうこしき  
 申し込み締め切り日時：2024年11月3日（日）

ぜひ  
 是非、ご参加をお願いします。





## 今月の教会カレンダー（典礼暦・外国語ミサ・行事等）



10月 4日（金）	はつきん 初金	9：30	ミサ
10月 6日（日）	ねんかんだい しゅじつ 年間第27主日	10：30 14：00	ミサ ベトナム語ミサ（tiếng Việt）
10月 13日（日）	ねんかんだい しゅじつ 年間第28主日	10：30 12：30	ミサ ポルトガル語（Português）
10月 20日（日）	ねんかんだい しゅじつ 年間第29主日	10：30 14：00	ミサ 韓国語ミサ（한글）
10月 27日（日）	ねんかんだい しゅじつ 年間第30主日	10：30 14：00	ミサ 英語ミサ（English）
11月 2日（土）	死者の日	10：30	死者追悼 ミサ
11月 3日（日）	ねんかんだい しゅじつ 年間第31主日	10：30 14：00	ミサ ベトナム語ミサ（tiếng Việt）

※11月1日（金）<sup>はつきん</sup>初金のミサは、<sup>やす</sup>お休みいたします。

月定献金振込先（教会維持費）

山梨中央銀行 本店営業部 普通預金 188674

墓地・納骨堂管理費振込先（毎年1月～5月中に）

山梨中央銀行 本店営業部 普通預金 1402890

どちらも宛名は

（宗）カトリック横浜司教区甲府カトリック教会